（年度様式２）　プロジェクト課題計画

課題Ｎｏ．１

課題名　土地利用型法人の経営戦略の策定と持続的経営の展開　　（「地域計画」関連課題）			
計画期間	令和５年度～令和７年度		
対象名及び対象者数	農事組合法人おおぬき彩土里ファーム（役員６人）		
課題の背景	・農事組合法人おおぬき彩土里ファームは，令和３年８月に法人化し，組合員は 21 戸で経営面積は約 80ha である。令和５年度作付け計画は，主食用米 38.9ha，飼料用米 4.6ha，WCS4.1ha，小麦 10.2ha，大豆 23ha，牧草 4.9ha である。 ・令和４年６月に 40 代の組合員が代表理事となったが，代表理事以外に作業の中心的役割を担う組合員は 70 歳前後である。 ・法人設立時に５カ年の事業計画を策定したが，今後の経営の維持・発展のためには，事業計画の検証と見直しを行い当法人に合致した運営手法を確立する必要がある。さらに，将来の担い手確保に向けて，周年作業の平準化と収益向上のため高収益作物の導入も検討することとしている。令和５年度産については，限られた労働力で効率的な土地利用を行う必要があるため，近隣畜産農家と連携した牧草生産を開始する。 ・事業計画の検証は，JA 記帳代行の成果品である決算書や経営分析表により，経営状況を適切に把握するスキル習得が求められる。 ・法人の経営農地には水張りのできない開田が約 10ha あり，活用方法について検討が必要である。また，令和５年には一部の開田でさつまいもの試験栽培に取り組む予定であるが，栽培経験がないため技術的支援が必要である。なお，当該ほ場で令和 4 年は大豆と小麦を作付したが，雑草被害が拡大しており，その対策が求められる。		
期待される対象の変化	・習得した経営管理のスキルを活かして，新規品目導入を含めた事業計画の見直しが行われ，持続的な法人運営が可能になる。		
県実施方針上の関連項目	1-(1)　先進的経営体や地域の核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化支援 1-(5)　収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援		
地域基本方針上の関連項目	1-(1)　地域農業を支える担い手の経営安定化支援 2-(1)　水田フル活用による先進的な水田農業の確立		
担当チーム員	◎佐藤結佳　佐々木美和　平海水緒　町直樹 曽根晴佳　蘇武真	担当班及び進行管理責任担当者	地域農業班 総括次長　木村政浩

令和５年度

成果指標	定性的目標 ・周年作業平準化及び所得の安定確保に向けた高収益作物の導入が検討される。 ・法人の経営状況を把握し，今後の経営改善に活かすことができる。 定量的数値目標 新規導入品目数：令和４年度　０　→令和５年度　１　→令和６年度　１　→令和７年度　２
活動指標	定量的数値指標（合計総現地活動日数　78 日） 活動事項 ・経営管理能力向上支援（40 日） ・栽培技術向上支援（さつまいも，土地利用型作物）（38 日）

関係機関の主な役割分担項目
JA 新みやぎみどりの統括営農センター営農支援課（経営支援）
JA 新みやぎ田尻営農センター（栽培，販売支援）
農業・園芸総合研究所（栽培技術支援）
大崎市（事業導入支援）

関連事業名と役割

課題Ｎｏ．２			
課題名　　土地利用型農業法人が取り組む加工業務用にんじんの生産安定　　（「園芸振興」関連課題）			
計画期間	令和４年度～令和５年度		
対象名及び対象者数	（農）タカギ農産，（農）中埣ファーム育み，（農）中田アグリ，（農）サンファームあがと，（農）みらいす青生（５経営体）		
課題の背景	・令和３年産米価格の大幅下落を受けて，農業者の経営安定のために露地園芸作物への一層の転換が推進されている。 ・美里町内の土地利用型農業法人が加工業務用にんじんを契約出荷により生産する取り組みが令和元年度から始まっている。年々取組面積は増加しており，令和３年度の作付面積は延べ 6.0ha となっている。中埣地区の４法人については土地利用計画策定や共同作業などで連携した動きも見られている。 ・にんじんは比較的，水稲や大豆と作業競合しない作業体系を組みやすく，加工業務用途は出荷規格が簡素で確実な販売が見込めるため，収入源として有力である。 ・美里町総合計画では 10ha 規模の土地利用型野菜及び５ha 規模の施設園芸を令和７年までに３品目とする指標を掲げており（現在２品目），にんじん生産の拡大が期待されている。 ・ほ場の排水対策による湿害回避，肥大性があり割れにくい品種の選定など，水田転作及び加工業務用途に適応した生産技術の向上を図る必要がある。また，天候の影響を受けることが多いため，適期播種や病害虫防除の重要性が増してきている。 ・水田転作による野菜生産の取組として地域への波及効果が期待される。 ＜前年度までの実施状況と今後の改善方向＞ ・各種調査により水田転作に適した品種の目途がついたが，出荷時期延伸のための作型拡大については更に検討が必要である。 ・夏作の病害発生は概ね抑えられたが，秋冬作の害虫防除に課題を残した。 ・排水性調査では湿害リスクが低いとされたほ場が多かったが，7 月の大雨被害で夏作は大幅減収となった。次年度は表面水の速やかな排出等の対策を徹底する。 ・冬作は販路の関係で年内出荷割合が減少したため，安定的な生産に向けて新たな販路の確保に向けた取組の支援が必要である。		
期待される対象の変化	・生産技術の向上により実需者が求める品質が確保され出荷量の増加が図られる。 ・複数の農業法人が安定して生産することで，実需者への継続出荷が可能となる。		
県実施方針上の関連項目	１－（４）園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援 １－（５）収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援		
地域基本方針上の関連項目	２－（１）水田フル活用による先進的な水田農業の確立 ２－（２）園芸振興と園芸産地の育成支援		
担当チーム員	◎上山啓一，蘇武　真，齋藤憲治，平海水緒，佐々木美和，木村政浩	担当班及び進行管理責任担当者	先進技術班 町　直樹

令和５年度		
成果指標	定性的目標 ・ほ場条件の改善や適期作業の取組が行われるようになる。 ・水田転作による高収益作物として経営の基幹品目となる。	
	定量的数値目標 ・対象経営体が加工業務用として 12 月末までに出荷する総量　R4：７％増，R5：15％増 70.2t(R3)　→　75.1t(R4)　（実績：50.8t）→　80.7t(R5)	
活動指標	定量的数値指標（合計総現地活動日数　78 日）	
	活動事項	
	・栽培技術向上支援（病害虫対策，土壌環境調査など）	20 日
	・栽培体系確立支援（品種検討実証，生育確認調査，現地検討会など）	48 日
	・販路開拓支援（実需者とのマッチング支援など）	10 日

関係機関の主な役割分担項目

・JA 新みやぎ（生産販売支援，事業導入支援など）・美里町産業振興課（経営体育成支援，事業導入支援など）・農業・園芸総合研究所（生産技術支援など）・園芸推進課（販路開拓支援など）

関連事業名と役割

（年度様式２）　プロジェクト課題計画

課題Ｎｏ．３			
課題名　麦類の品質・収量向上を目指した堆肥の活用と施肥の導入　（「耕畜連携」関連課題）			
計画期間	令和５年度～令和７年度		
対象名及び対象者数	涌谷町麦類生産者　１４経営体		
課題の背景	・　涌谷町には 100 頭規模の大規模畜産農家が複数あり，令和４年度の事業で堆肥のストックヤード 3 か所を設置する計画がある。町内では年間 10,000ｔ以上の堆肥が生産されているが，利用しきれていない状態ということである。 ・　水稲－麦類－大豆のローテーションが行われているほ場が多く，水稲への影響（倒伏）や作業時間の関係で堆肥を施用していないほ場が増加しており，地力の低下を感じている関係者も多い。 ・　地力向上を目的とした農林水産研究指導センターの試験で，大麦の生育途中で ２ｔ/10a の牛ふん堆肥を散布した結果，後作の水稲，大豆の収量、品質が向上したというデータがある。この結果から，町内産の堆肥を活用して作物の生産性向上が図れないかという意見が出ているが，活用のためには使い方や特性，施用効果を生産者に理解してもらう必要がある。 ・　令和５年産の涌谷町の麦類生産者は 14 経営体（法人 8，組合等 3，個人 3 名），播種面積は大麦 18ha，小麦 128ha と，小麦は県内でも有数の産地である。 ・　令和４年産から小麦は全て「夏黄金」に切替えたが，既存品種より弱小穂が発生しやすいという特徴がある。令和４年産の等級は全量一等であったが，降雨による播種遅れや初期の湿害の影響もあり，収量は 260kg/10a と３年産の約 75%にとどまった。 ・　小麦は，タンパク含有量を上げるために穂揃期追肥が必須であるが，出穂後の大量の追肥は作業的に困難なため，既存品種と同様，夏黄金も減数分裂期に 2 回分を一括追肥する方法が主流となっている。しかし，生産現場からは「品質や収量の向上のためには，追肥方法の見直しが必要ではないか」という意見が出てきている。		
期待される対象の変化	・町内での耕畜連携が進み,堆肥の有効活用が図られる。 ・地力の向上が図られ，土づくりの重要性に対する理解が進む。 ・効果的な施肥方法が定着し，麦類の品質・収量の向上につながる。		
県実施方針上の関連項目	１－（５）収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援 ３－（３）環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援		
地域基本方針上の関連項目	２－（１）水田フル活用による先進的な水田農業の確立 ４－（１）環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援		
担当チーム員	◎阿部香，髙橋真樹子，佐藤結佳， 佐藤啓一	担当班及び進行管理責任担当者	先進技術班　班長 町　直樹

令和５年度	
成果指標	定性的目標 ・町内での耕畜連携が進み,堆肥の有効活用が図られる。 ・土づくりの重要性に対する理解が進み，堆肥散布実施者が増加する。 ・効果的な施肥方法に対する理解が進み，取組者が増加する。
	定量的数値目標 堆肥散布実施者数 令和４年度　０経営体　→５年度　１経営体　→６年度　３経営体　→７年度　６経営体
活動指標	定量的数値指標（合計総現地活動日数　57 日）
	活動事項 １　堆肥の有効活用支援（24 日） ２　麦類の品質・収量の向上（33 日）

関係機関の主な役割分担項目

涌谷町（堆肥利用組合支援，小麦展示ほ運営支援）

JA 新みやぎ涌谷営農センター(小麦展示ほ運営支援，生産技術指導支援)

関連事業名と役割